

【今週の注目疾患】

《後天性免疫不全症候群》

11月30日から12月6日は千葉県ストップエイズウィークです

千葉県では毎年、「千葉県ストップエイズウィーク」として、12月1日（世界エイズデー）を中心にキャンペーンなどを実施しています¹⁾。今年は12月7日（日）に、無料・匿名・予約不要の休日街頭HIV検査を実施します。不安なことがある場合には、県ホームページ等をご確認の上、ぜひご活用ください²⁾。

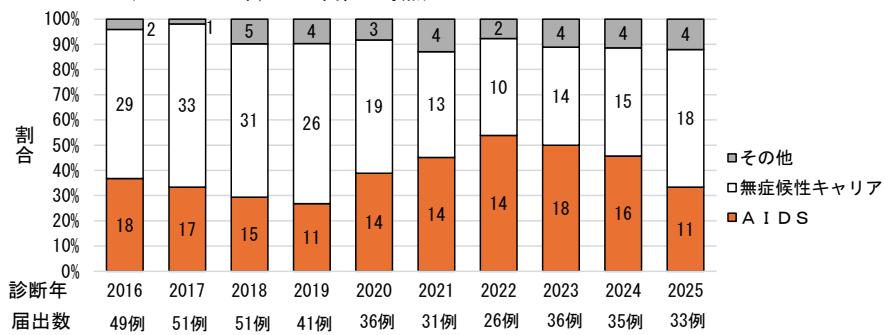
2025年第47週時点の年間累計届出数は33例であった（図1）。

性別では、男性32例（97%）、女性1例（3%）であった。病型別では、無症候性キャリアが18例（55%）、AIDSが11例（33%）であった（図2）。

図1：県内の後天性免疫不全症候群診断年別届出数
(2016-2025年, 2025年第47週時点)



図2：県内の後天性免疫不全症候群の診断年別病型別届出数・割合
(2016-2025年, 2025年第47週)



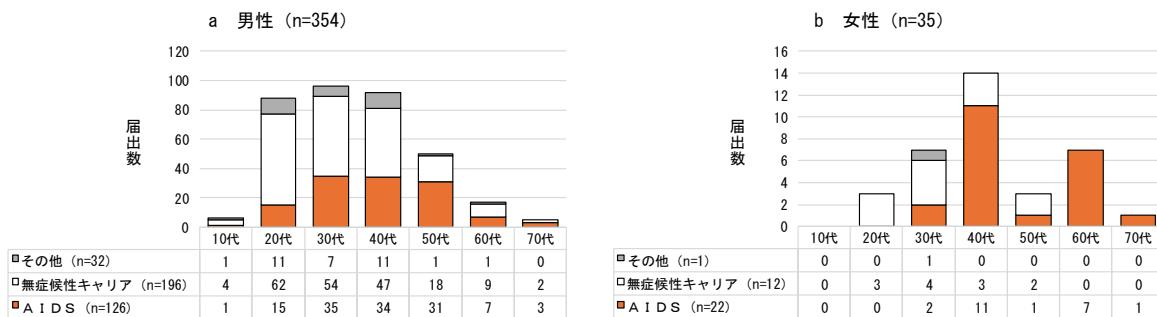
2016年から2025年第47週までに届出のあった389例の概要は以下のとおり。

性別は、男性354例（91%）、女性35例（9%）であり、男性が約9割を占めた。

病型別は、男性では無症候性キャリアが最も多く196例（55%）、次いでAIDS126例（36%）、その他32例（9%）であった。一方、女性ではAIDSが最も多く22例（63%）、次いで無症候性キャリア12例（34%）、その他1例（3%）であった（図3）。

年齢群別では、男性において、届出数の多かった20代から40代では、AIDSと比較して無症候性キャリアの割合が高かった。女性は40代の届出数が14例（40%）で最も多く、そのうちAIDSが11例（79%）と8割近くを占めた（図3）。

図3：県内の後天性免疫不全症候群別・年齢群別・病型別届出数（2016-2025年、2025年第47週時点）



後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus; HIV）に感染することで免疫不全が生じ、健常者では通常見られないさまざまな日和見感染症や悪性腫瘍が合併した状態をいう。HIV感染の自然経過は感染初期（急性期）、無症候期、AIDS発症期の3期に分けられ、時間が経過するとともに免疫システムの破壊が進行するため、早期診断、治療がとても重要となる。近年、さまざまな研究において、効果的な抗HIV治療を受けて血液中のウイルス量が検出限界値未満（Undetectable）のレベルに抑えられているHIV陽性者からは他の人に伝播しない（Untransmittable）こと（U=U）が分かってきており、早期治療の開始で新たな感染を防止する（Treatment as Prevention; T as P）という考え方が主流になっている^{3,4)}。

ストップエイズウィーク以外でも無料・匿名の検査を実施しています

県では、保健所等において無料・匿名のエイズ等の検査を実施しています。感染が気になったり、不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールや予約方法をご確認の上、ご活用ください⁵⁾。

■参考・引用

- 1)千葉県健康福祉部疾病対策課：千葉県ストップエイズウィーク 2025
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/stopaids.html>
- 2)千葉県健康福祉部疾病対策課：休日街頭 HIV 検査について
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/kansenshou/kyuujitu.html>
- 3)国立健康危機管理研究機構：AIDS（後天性免疫不全症候群）
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/alphabet/aids/index.html>
- 4)厚生労働省：HIVとエイズ
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaiku-kansenshou/aids/index.html
- 5)千葉県健康福祉部疾病対策課：千葉県内のエイズ等相談・検査
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>